



なごしさい  
**夏越祭** (7月29日)

無病息災 除災招福

岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七 貝原益軒書 —

岡田宮夏越祭 ごあんない

第57号

平成26年7月吉日  
発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番1号  
郵便番号 806-0033  
電話 (093) 621-1898  
FAX (093) 621-5330  
URL <http://www.okadagu.jp/>  
E-mail [okadajinja@jcom.home.ne.jp](mailto:okadajinja@jcom.home.ne.jp)

目次

夏越祭ごあんない	1
総代会研修旅行(太宰府の「国宝 大神社展」)	2
郷土地名考 ⑤7	3
神社なぜなぜ問答 ⑤7	3
七五三	4
巫女奉仕者募集	4

平成二十六年七月二十九日(火) 午後六時~九時  
(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。

参列の方には大祓詞をさしあげます。

ふるってご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

魔除けとして玄関に奉斎して下さい。

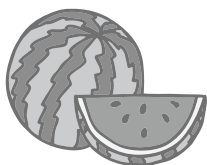
■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■かき氷 一〇〇円

地元青年会の屋台がたちます。

無料券



当日この券をご持参ください  
かき氷が無料になります。

総代会研修旅行より

太宰府の

「国宝 大神社展」

権禰宜 緒 方 翔 馬

平成二十六年二月十八日、毎年恒例の総代会研修旅行が開催されました。

早朝より岡田神社を出発し、バスで太宰府天満宮へと向かいました。

太宰府天満宮に到着し、それぞれ思い思いに、参拝をいたしました。太宰府天満宮は、平日にも関わらず、多くの人で賑わっており、また深い縁をもつ梅の木も、満開とは言えませんが、十分に見所のある、綺麗な花を咲かせていました。

天神様への参拝後、一行は九州国立博物館へと歩を進め、「国宝 大神社展」を閲覧いたしました。今回のこの特別展は、全国の神社の協力によって実現したもので、多数の神社関係の国宝と重要文化財が一堂に会した、空前の規模の神社展であります。

私が特に感動したのは、水無瀬神宮に蔵されます「後鳥羽天皇宸翰御手印置文」であります。後鳥羽天皇は承久の乱後に、隠岐に配流されましたが、その地でお書きになった絶筆に、御手印を捺された置文であり、文と武を兼ねられた、偉大なる天皇の朱の御手印を目の当たりにして、厳肅な

気持ちになり、容易に立ち去り難い思いがいたしました。

その他、大神神社の禁足地出土の子持勾玉、沖ノ島祭祀遺跡出土の種々の銅鏡から、古代人がどのようなものに神聖さを感じたのか、その一端を伺い知ることが出来ました。

神道人、また神社に深い興味をもつ人にとって、非常に得るものが多い特別展であり、観覧された方それぞれ、色々な気づき、驚き、感動を味わうことが出来たと推察いたします。

その後、福岡観光会館はかたで昼食を頂き、アサヒビール工場へ向かい、工場の見学を行いました。ビールが完成するまでの工程を学んだ後、試飲を行い、それぞれ出来立ての生ビールやジュース等を美味しく味わい、この度の研修の締めといたしました。

私は今回が初めての総代会研修旅行でしたが、来年もまた、総代や崇敬者の皆様と共に思い出に残る研修旅行に参加させて頂きたいと思っております。



太宰府天満宮



国宝 大神社展



アサヒビール工場



九州国立博物館



太宰府天満宮 曲水の庭

## 郷土地名考 57

## 中津口（なかつぐち）

城下町の小倉は鎮西の拠点、本州と九州の中継地であることは昔も今も変わらない。藩政時代までは軍事的要衝であった。城内から各地に通じる道路には門があつて、出入り鉄砲を取り締まった。中津口は中津街道の往来口、筑前口は長崎街道、門司口は門司、香春口は田川に通じ、このほか領内に出る平松口、溜池口、富野口などがあつた。以上は寛政年間豊前小倉図による。

古老の言い伝えでは百姓が城内に商いにくる際は何かと付け届けをしたそうである。また賤民身分は門でわらじを脱がせ、何人城内に入ったか分かるようにしていたという。

中津口はもと乱れ橋村といい、乱れ橋の名は、宇佐町の神岳川にかかる橋の名にまだ残っている。藩主細川忠利これを嫌い、仲津口に村名を変えたと企救郡誌にある。

神社  
なぜ  
問答

(その57)

## 大安や仏滅など

## 日の吉凶について

よく冠婚葬祭をおこなう日の吉凶をみるときに一般的に用いられるのが、先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口という六つの日の吉凶を現した六曜（ろくよう）です。

古代から明治以前まで、日本では中国の暦の影響を受け、干支や節氣を重要な要素として備えた※太陰太陽暦を使用してきましたが、この六曜も時刻の吉凶を現すものとして、室町時代初頭に中国から伝わってきました。

日本に伝わった当初は、小六壬（しゅうりくじん）といわれ、大安・留連（りゅうれん）・速喜（そくき）・赤口・小吉・空亡（くうぼう）の六つから成る時刻占いでしたが、江戸時代末に、現在のようにな形に定着しました。

明治以降、官暦としての発行を許されたのは神宮の暦だけでしたが、日の吉凶などの暦註が一切省かれたものでした。

これに対して民間で出回った偽暦（おぼけ暦）には暦註が掲載され、六曜が一般庶民の間に広く普及するようになりました。

戦後、暦の発行が自由になり、六曜や人の生年で吉凶を判断する九星などを載せた運勢暦が盛んに出されるようになりました。こうした暦の多くは、神々の御加護を戴くために、常に慎みのある生活を送ることを説いており、社会全般的な習俗として我々の生活に潤いを与えてきました。

六曜の吉凶占いでは、友引に凶事をおこなわない、仏滅は万事を忌むなどの禁忌があります。あまり拘泥しすぎるのは問題ですが、一つの慣習として考えればよいのではないのでしょうか。

## ※太陰太陽暦（たいいんたいようれき）

明治初年まで使われていた暦（旧暦）。明治五年に新暦（太陽暦）に改暦された。旧暦と新暦とはおよそ一カ月のずれがあり、新暦は古来日本人の風習や季節感に適合しなかったことから、例えば、七夕を八月七日におこなうなど、現在でも「月遅れ」と称し、一カ月遅らせて実施する地域もある。

# 七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いつその息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成二十六年の七五三の年齢は、左記のとおりです。ので、ご家族おそいでお参り下さい。

## 記

- 三歳 平成二十四年生 (かぞえ齢) 平成二十三年生 (満年齢)
- 五歳 平成二十二年生 (かぞえ齢) 平成二十一年生 (満年齢)
- 七歳 平成二十年生 (かぞえ齢) 平成十九年生 (満年齢)

※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。  
※毎日午前九時より午後四時半まで受付をしています。



# 正月巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、結婚式やお神礼やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めであり、貴重な体験になるかと思えます。

ご希望の方は神社社務所  
電話 (621) 一八九八  
までお問い合わせ下さい。

奉仕資格 高校生以上  
未婚の方

※書類審査・面接が有ります。



できれば髪の長い方希望  
茶髪不可(程度によります)



## スタジオカラーズ

# STUDIO CLORS

produced by 有馬写真館

北九州市八幡西区岡田町1-44  
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00  
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

# ¥10,800~

(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

# ¥0~

(お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております